

波形の観察から下記の数値を得たとする。

$$p=4, q=5, r=6$$

$$\tau_1=362 \mu \text{ sec}$$

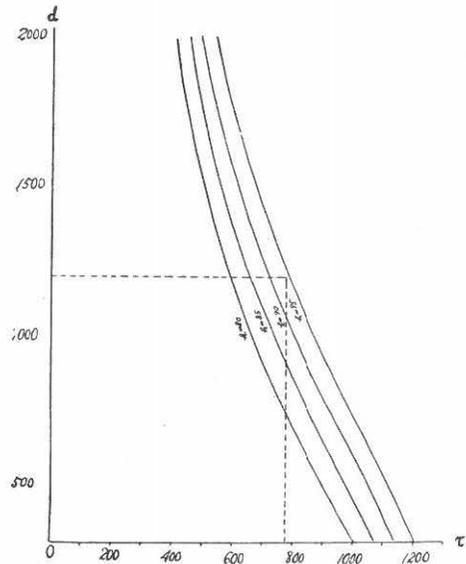
$$\tau_2=412 \mu \text{ sec}$$

第2図において(A), (B), (C), (D), (E)各尺は(1)式の分子を計算するものであり, (F), (G), (H)各尺は分母を計算し, (I)尺は求める h の大きさが km の単位で目盛りされている。先ず(A)尺上の $\tau_1=362$ の点と, (B)尺上の $\tau_2=412$ の点とを結ぶ直線が参考線(C)尺と交わる点 P を求める。(D)尺上に $\tau_1+\tau_2=774$ の点と P 点とを結ぶ直線の参考線(E)尺上の交点 Q は(1)式の分子の計算結果である。次いで分母の計算をするため(F)尺上にて $\tau_1=362$, (G)尺上に $\tau_2=412$ の两点を結ぶ直線の参考線(H)尺上の交点を R とすれば R は(1)式分母の計算結果であり, 従つて R と Q を結ぶ直線の(I)尺上の交点 S は(1)式の右辺の計算を総て実行した結果であつて目盛り94は電離層の見掛けの高さが94 kmであることを表わしている。

次いで空電源迄の距離は第3図を用い, $\tau_1+\tau_2=774$ から $d=1,200$ km を得ることが出来る。

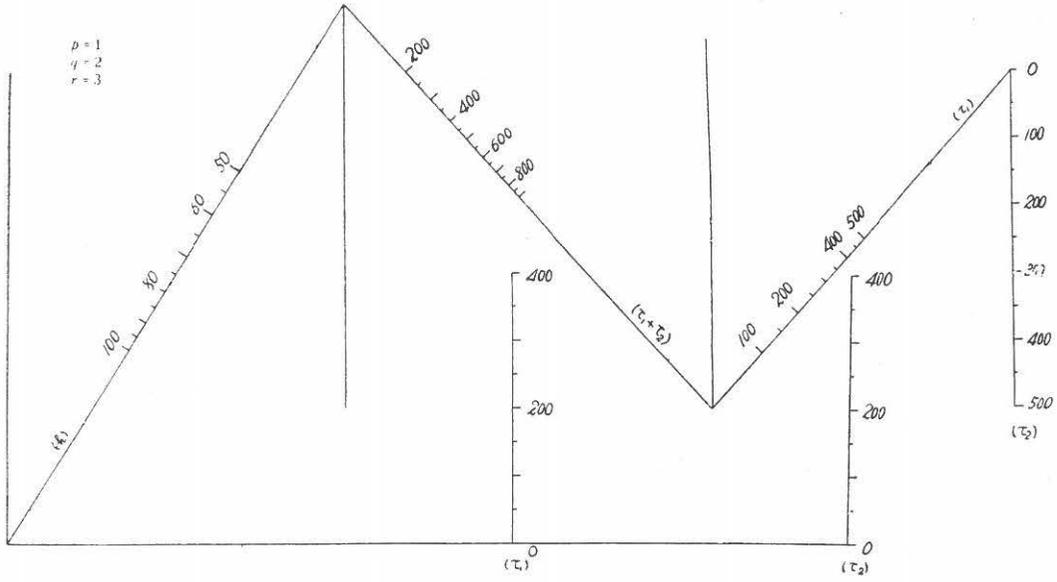
第4図から第16図までは p, q, r の最も利用の多

第3図

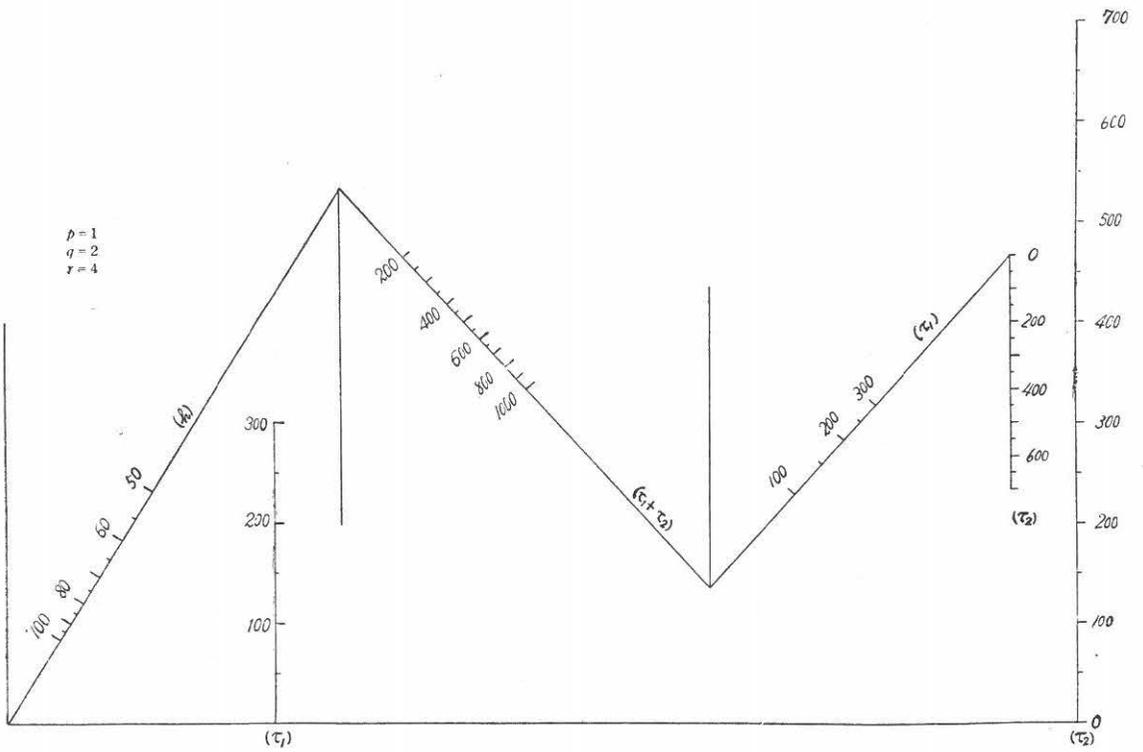


い組合せに対して作成した h を求める計算図表であり, 又第17図から第25図は d を求めるグラフである。猶本計算図表の誤差は2 km 以内であろう。

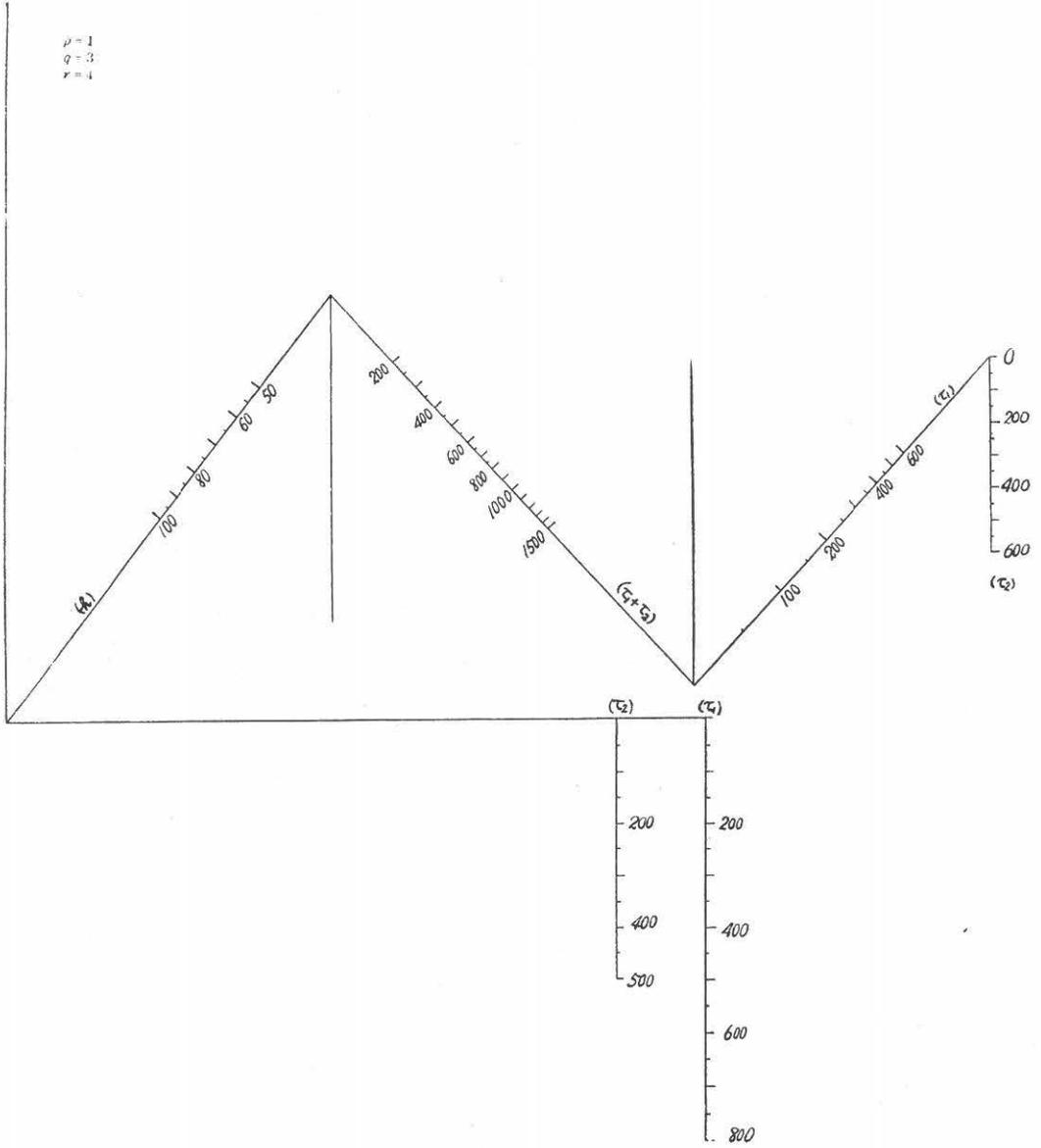
第 4 图



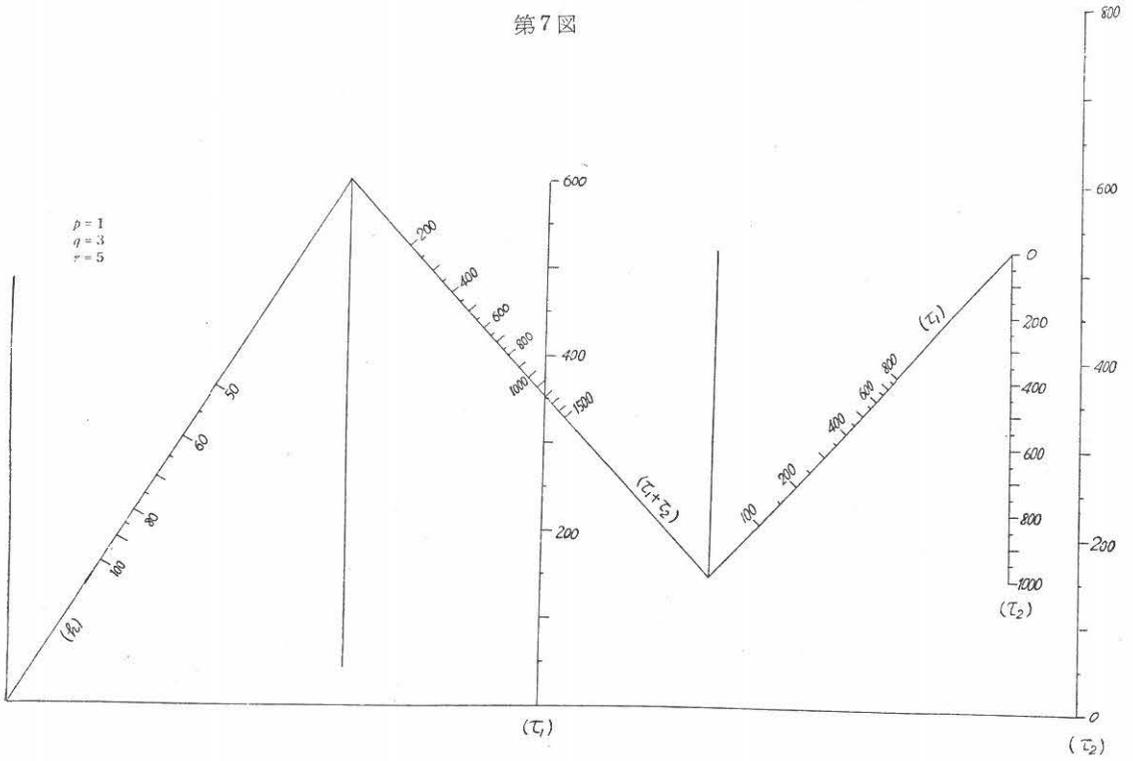
第 5 图



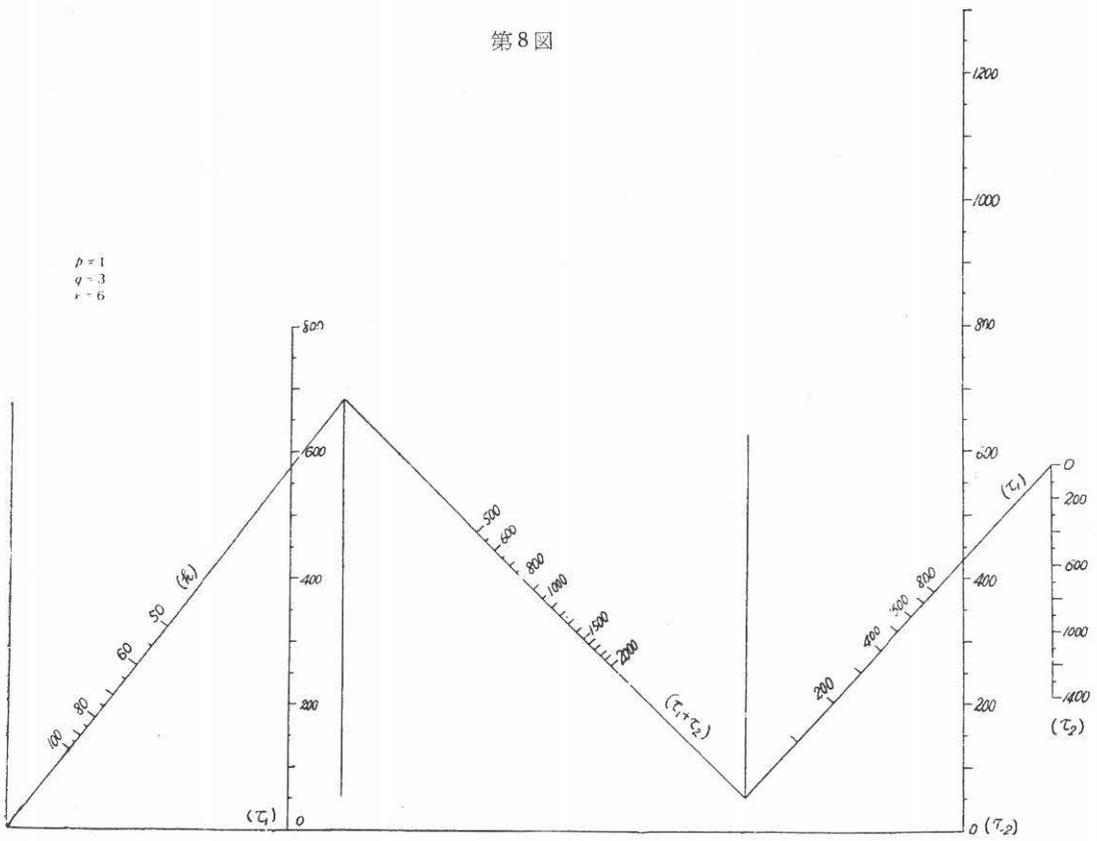
第6圖



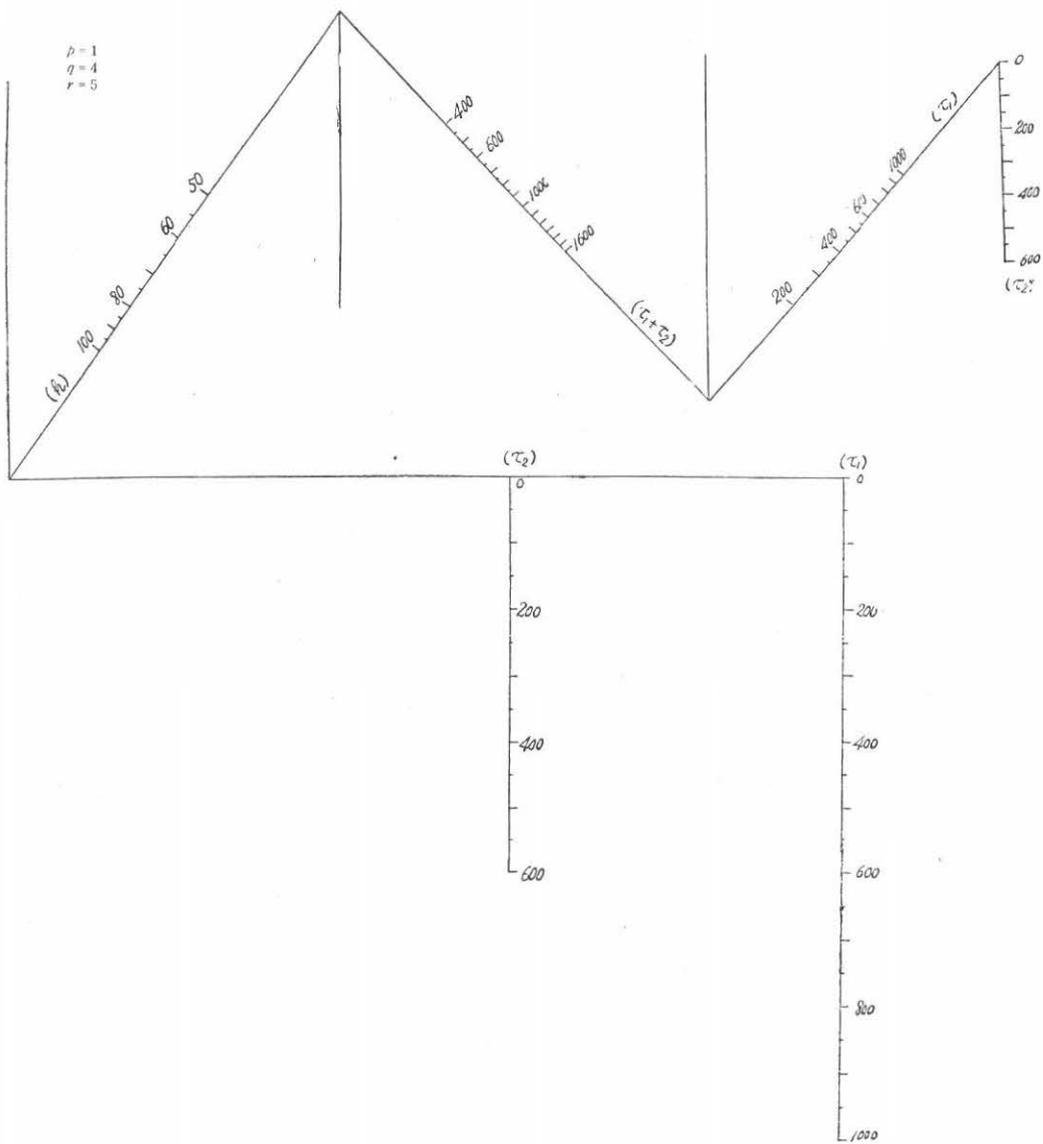
第7图



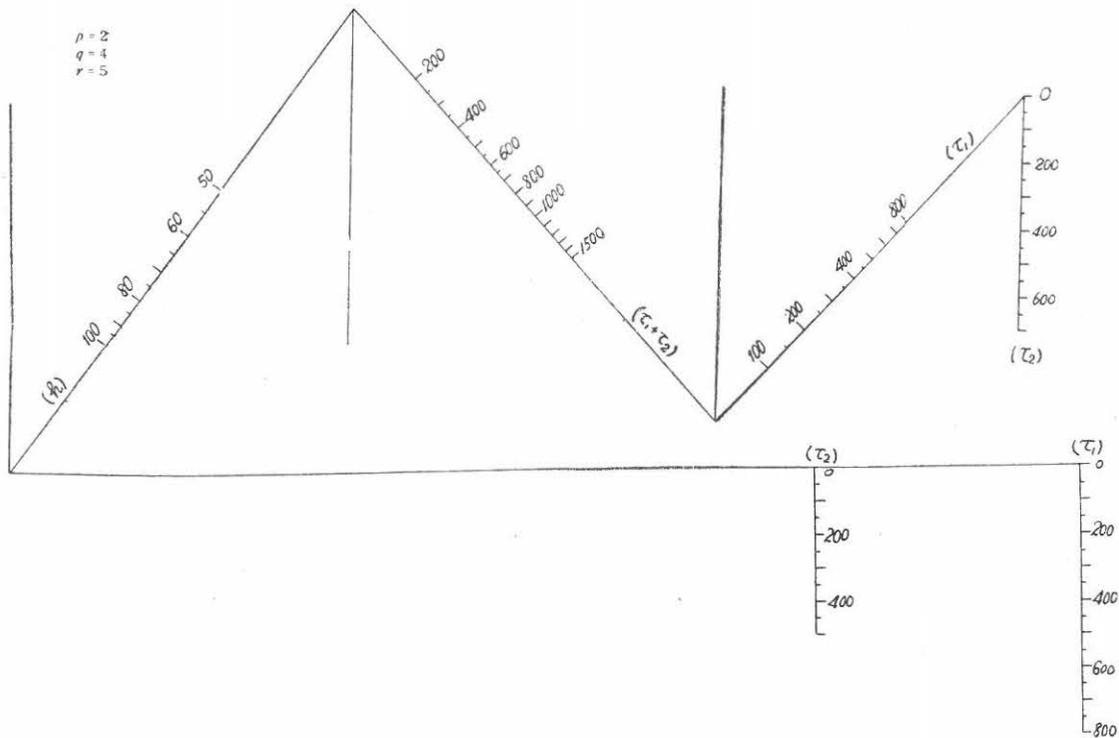
第8图



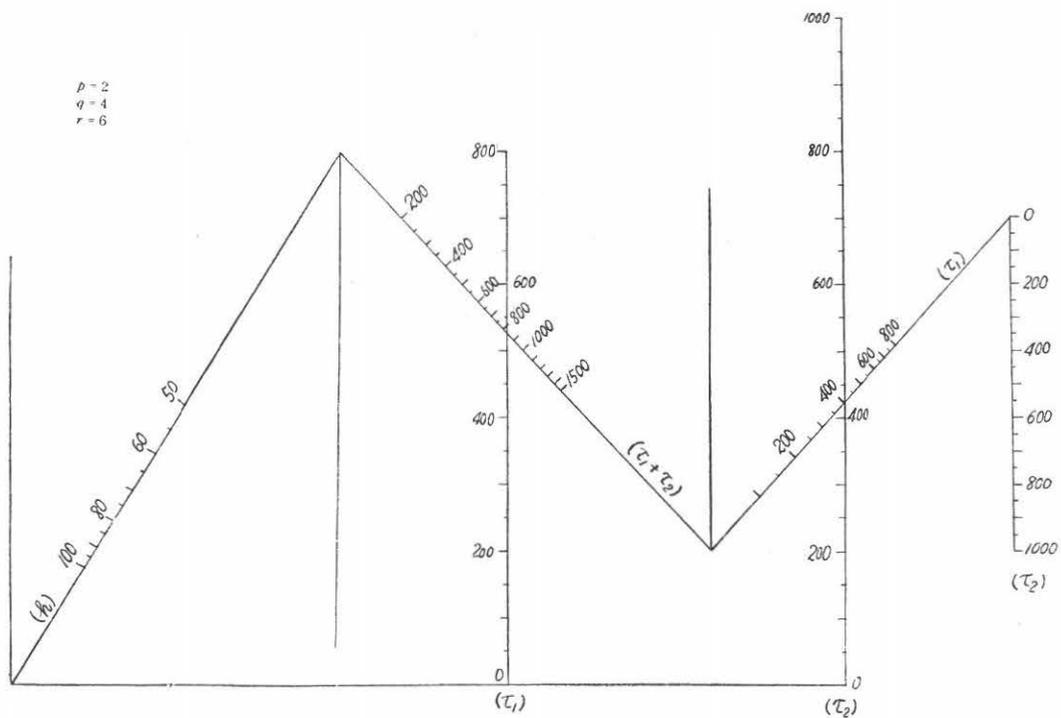
第9図



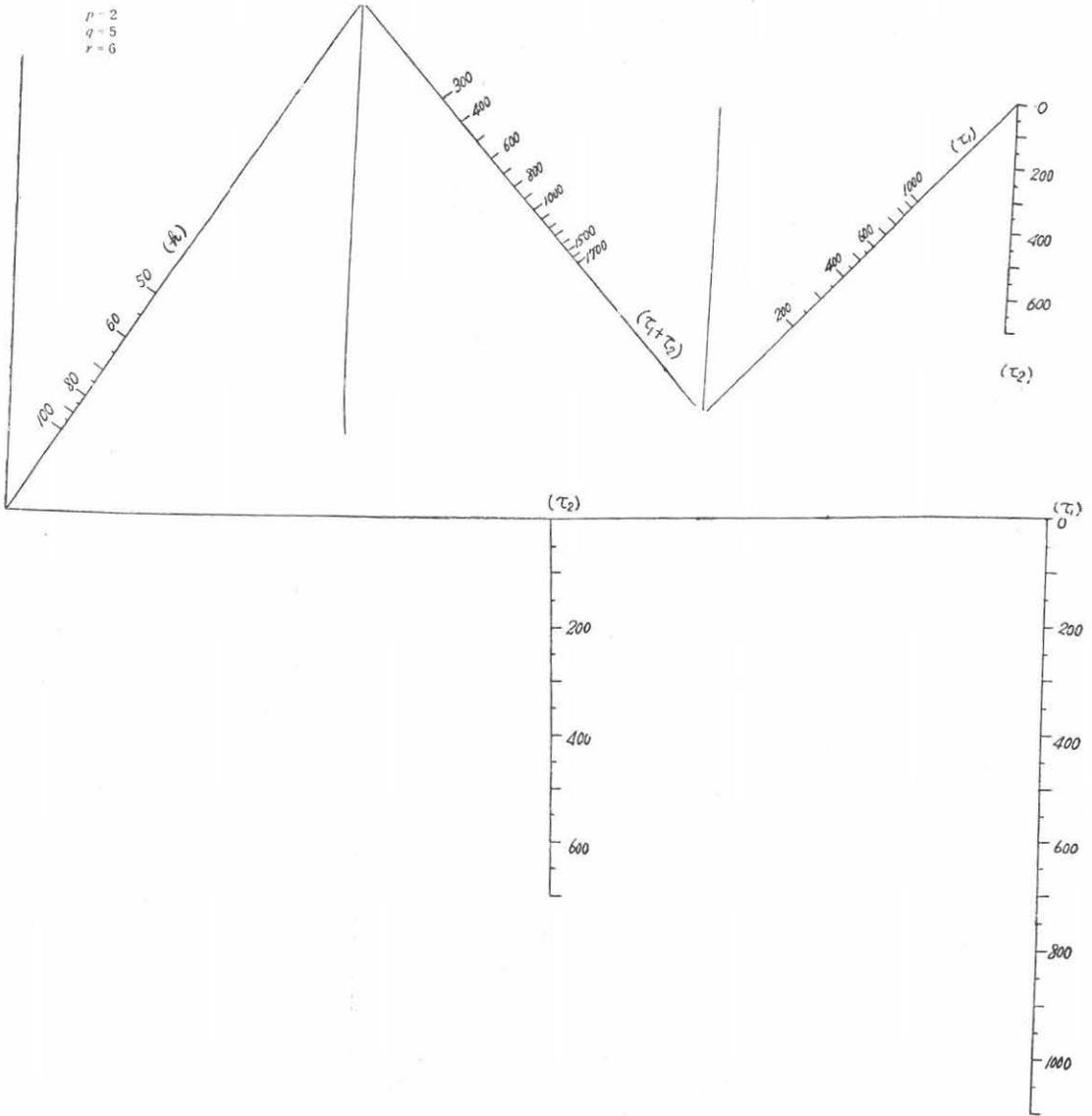
第10圖



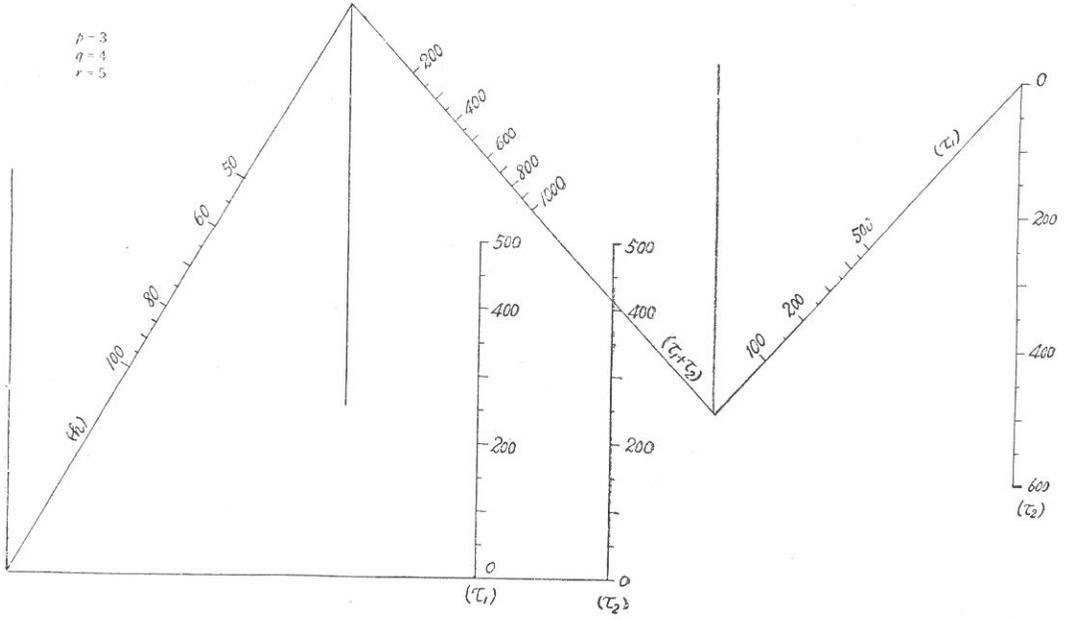
第11圖



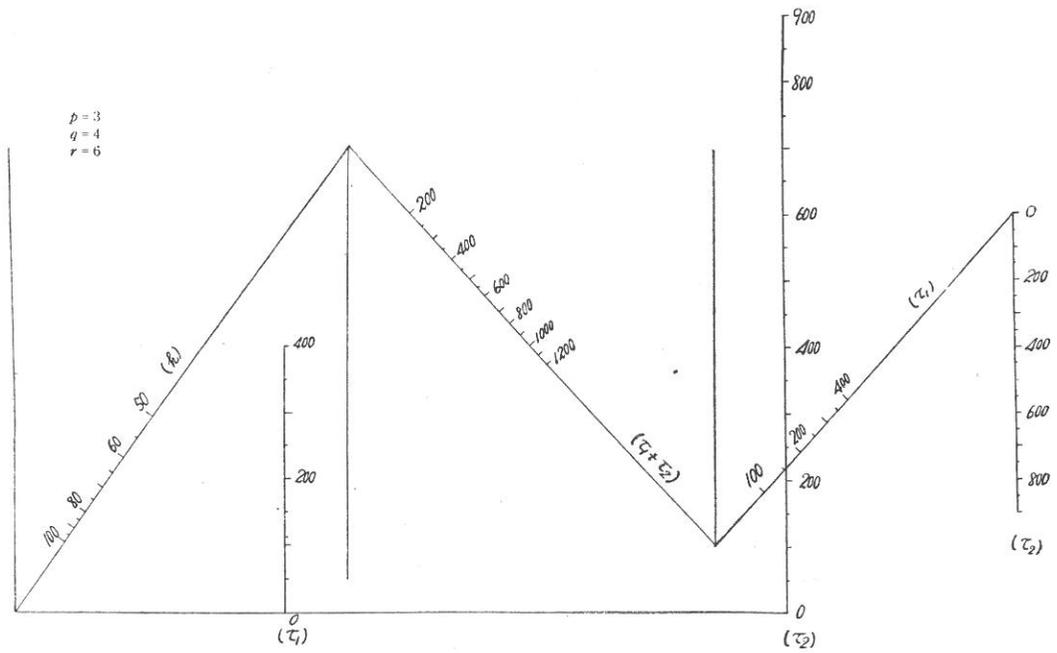
第12圖



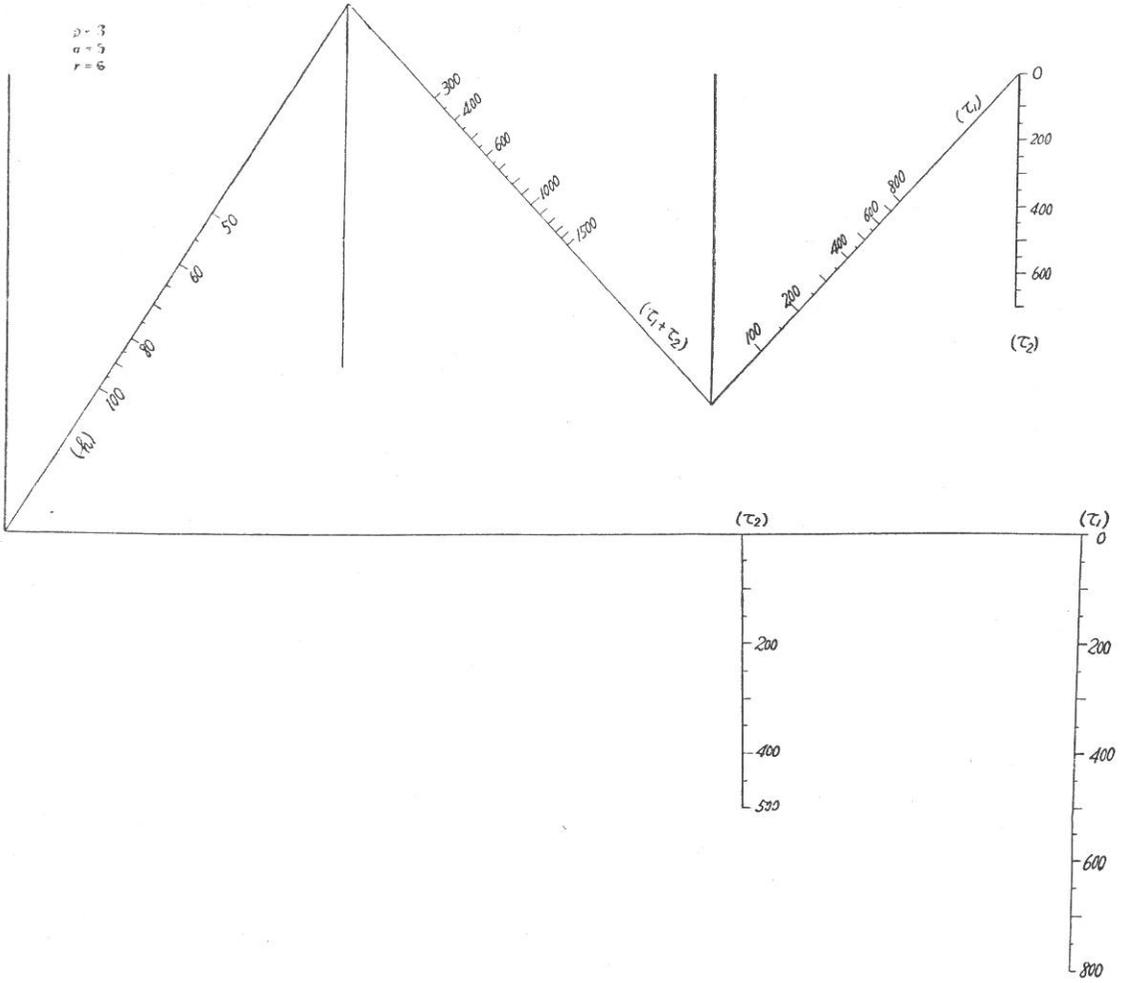
第13圖



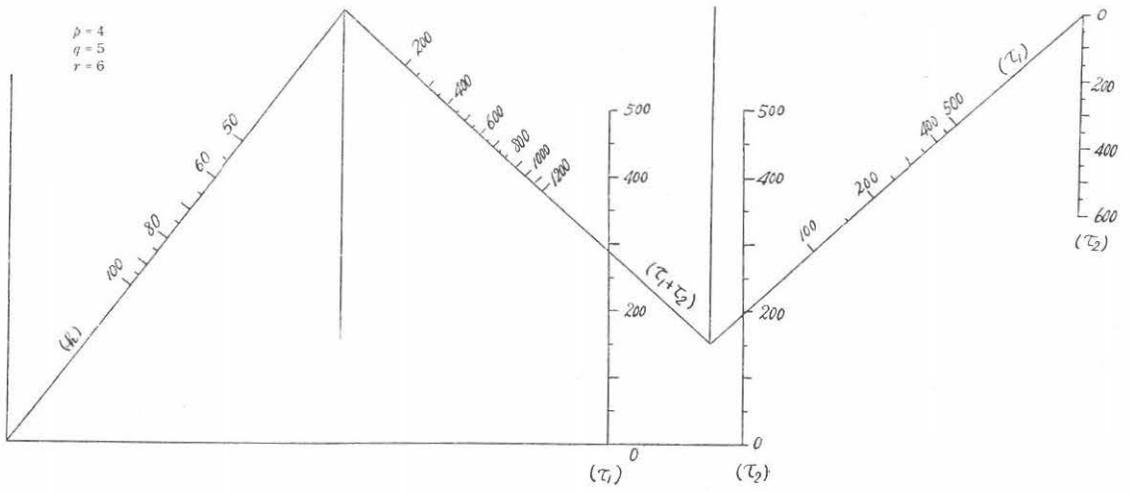
第14圖



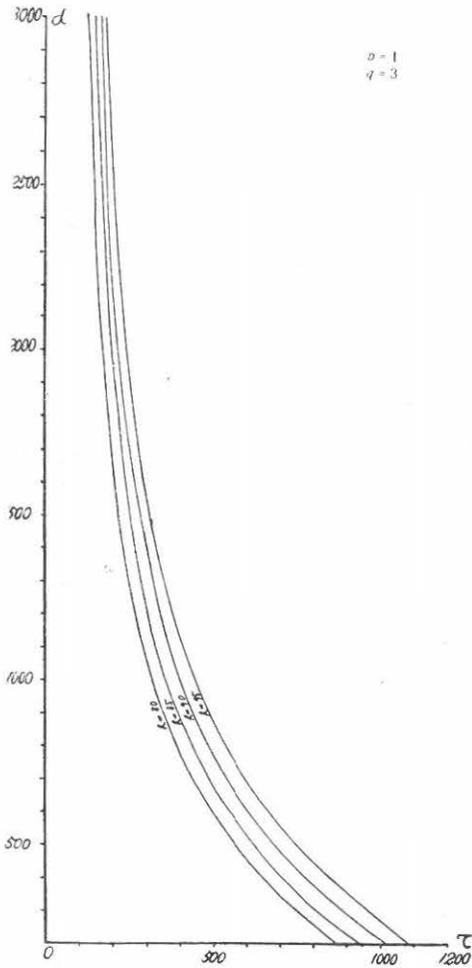
第15図



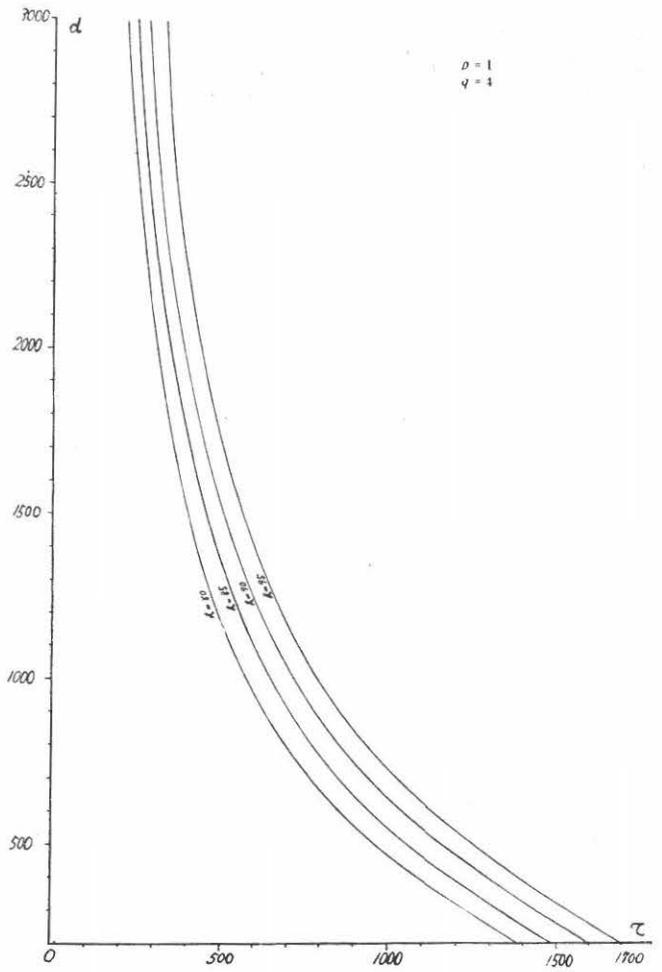
第16図



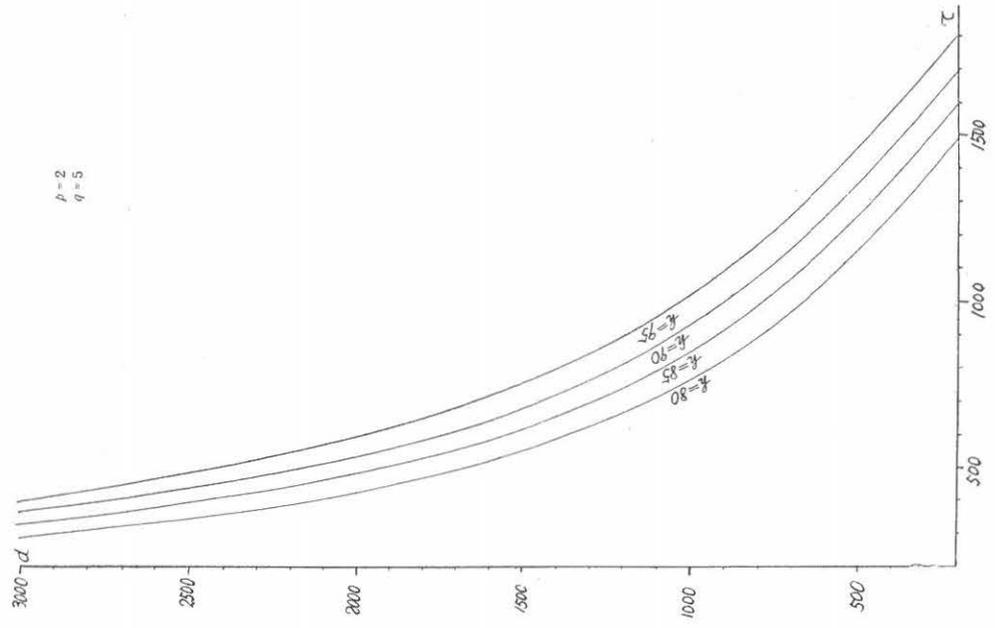
第17図



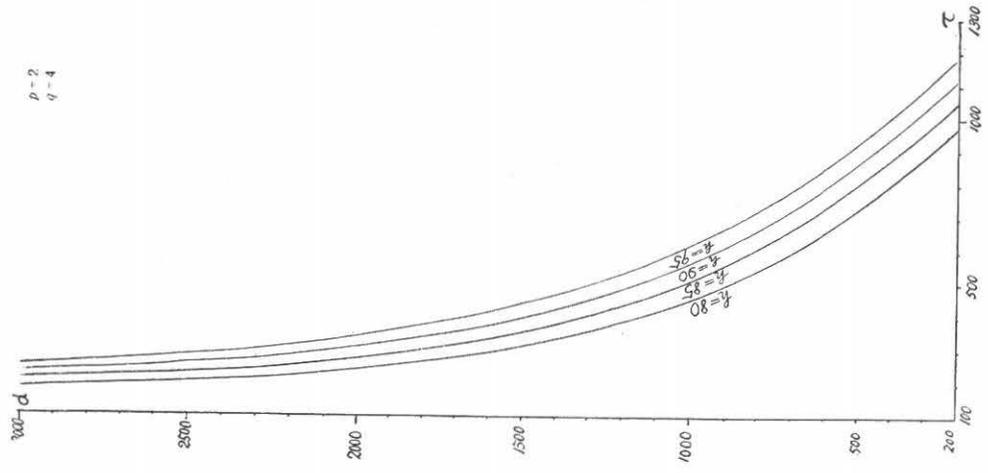
第18図



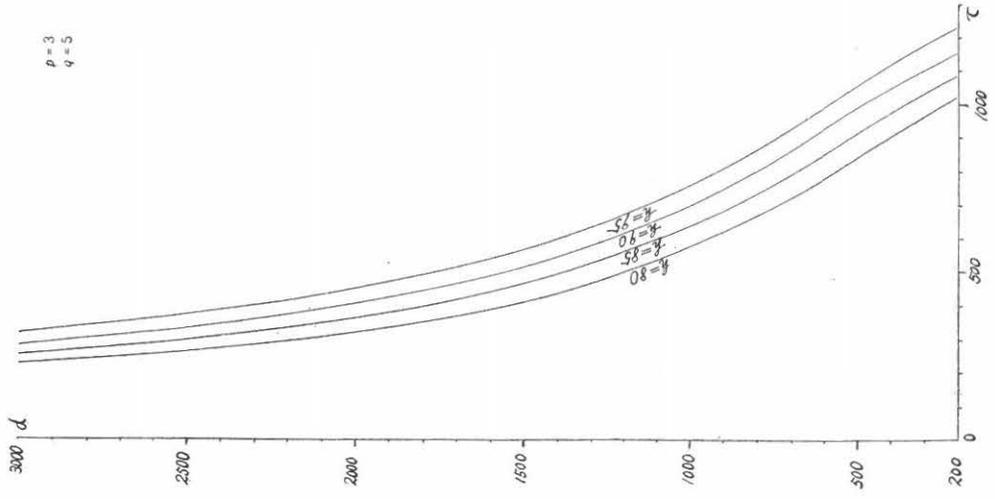
第20图



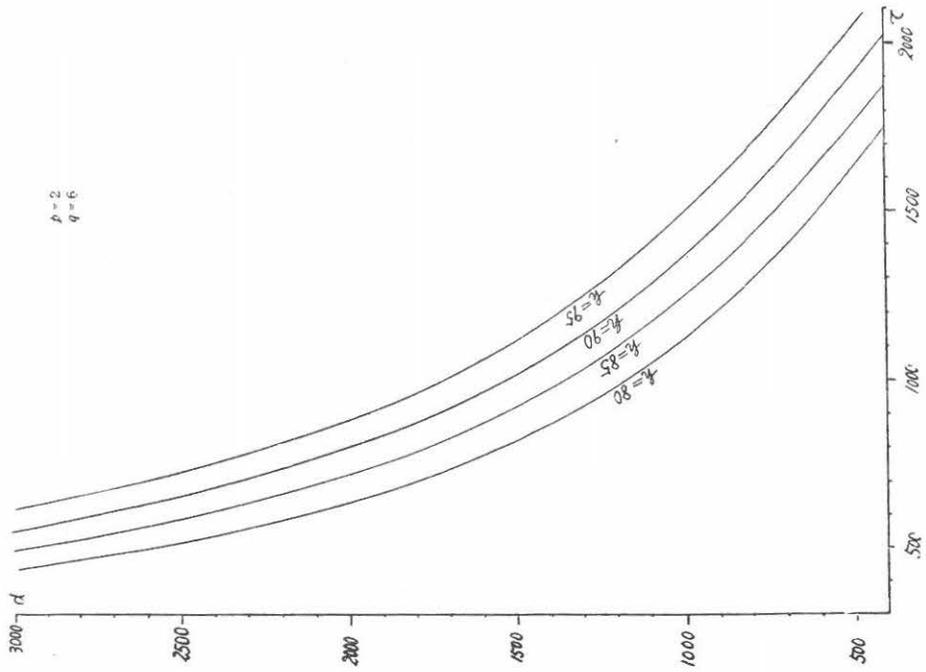
第19图



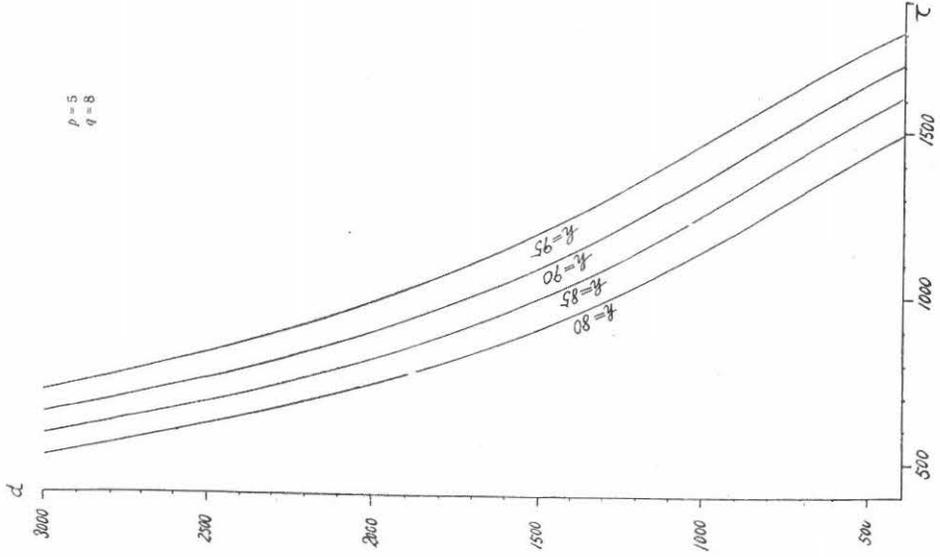
第 22 图



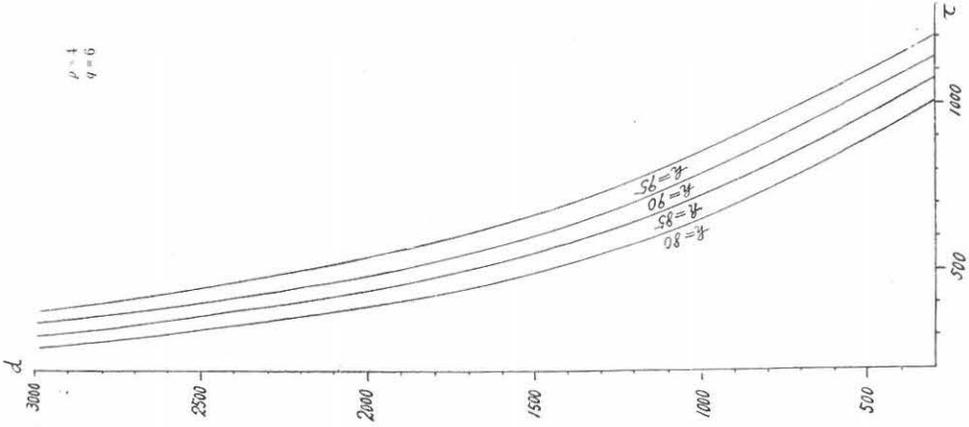
第 21 图



第25图



第24图



第23图

